

# 予備自衛官補（技能）訓練参加所感



予備自衛官補（技能（歯科医官））出身  
 階 級：予備2等陸佐（令和4年10月5日任用）  
 氏 名：高橋 忠弘（タカハシ タダヒロ）さん  
 職 業：歯科医師（高忠デンタルクリニック院長）



## 【予備自衛官紹介文】

令和2年12月18日付で予備自衛官補に採用後、令和4年10月4日に予備自衛官任用に必要な計10日間の訓練を修了し、令和4年10月5日付で予備2等陸佐に任用された、高橋さんの訓練参加所感を紹介させていただきます。

## 【予備自衛官補（技能）10日間の教育訓練を終えて】

令和4年9月16日より5日間、第一段階目の教育訓練を受けました。予備自衛官補には令和2年12月18日には受かっておりましたが、新型コロナウイルスの影響や私自身の体調不良（右耳突発性難聴となり昨年度入院加療をしておりました。）などが重なり、思うように訓練に臨めませんでした。今回の訓練を逃すと教育訓練終了期限に間に合わなくなるという、夏休みの宿題をしないまま、8月31日を迎えた小学生の様な状況での参加でした。

右耳の突発性難聴が不安要素の大きな一つであった事は言うまでもありませんが、51歳という年齢も大きな不安要素でありました。これらの不安は、訓練前日に前乗りで着隊したときにすぐに無くなりました。右も左もわからない状況で大津駐屯地の門をくぐりましたが、

警衛の隊員の方に受付の場所を丁寧に教えていただき、受付の際にも教官の皆様に親切に接していただき、担当の班長さんに至っては荷物を隊舎まで運んでくださる等、こちらが恐縮するほど丁寧な対応を受けました。このように書きますと、「じゃあそれまでどう思っていたんだ！」という事を聞かれる方もいらっしゃると思いますが、それまで自衛隊は暴力までは振るわれなくても若干乱暴でも許される世界で、きつめの体育会系運動部のノリだと思っておりました。（今ではそんな風に思っていた自分に対して深く反省しております。）

訓練自体も若い方よりは動きの鈍い私にも何とかついて行かれる（あるいはついて行かれる範囲で訓練をしていただいたのかもしれませんが・・・）くらいの強度でした。各班の班長さん達はとても個性的ではありましたが、自衛隊としてピシッとするとところは外さずキッチリとされていて、私よりも若いのに人間的にも素晴らしい方々だととても関心するとともに、今までこのような自衛隊員の方々に守られているからこそ、安心、安全な日本という国で生活できていたのだと感謝の気持ちも沸き起こってきました。

2段階目の訓練は、一段階目の訓練を終え1週間後に接続で受けました。一段階目の訓練と一緒に終えた顔触れも何人もおり、初日からリラックスした気持ちで訓練をスタートしました。実際には勤めている職場の状況により難しい所もあるかと思いますが、最初の訓練を忘れないうちに受けられたことは自分にとって非常に良かったと思います。この回は銃の取り扱いから、実弾射撃までがメインになりました。生まれて初めて銃を手にしたときは最初おっかなびっくりな感じで何となく馴染めない感じでしたが、訓練を重ねるにつれて銃に対する恐怖感も薄まり、分解・結合等をしていくうちに愛着さえ感じるようになりました。

実弾射撃の訓練ではさすがにドキドキしましたが、教官が丁寧に指導してくださり何とか的に当てる事が出来ました。銃の取り扱いをしている際に衛生科の教官が言われた言葉が非常に印象的でした。それは、「私は衛生科の隊員として射撃の訓練もしっかりと受けている。人の命を奪う道具である銃は、使い方によって守るべき命を守る事が出来る道具です。射撃が上手ければ、味方を守る事はもちろん、敵に対しても急所を外して戦闘能力を無くす事ができるかもしれない。そう思って射撃の訓練をしています。」というような話をされました。実戦でそのような射撃ができるかどうかはわかりませんが、その言葉を聞いて射撃の訓練の重要性をより一層強く感じました。

今回の訓練も内容盛りだくさんで、間稽古等本当に寸暇を惜しんで熱心に教えてくださり、教官の方々に対しては感謝しかありません。この気持ちを忘れずにこれからも予備自衛官としてしっかり日々訓練と思い日常生活を過ごしていきたいと感じました。



修了式の様子 (4. 10. 4大津駐屯地)



普段の診療時の様子